

8 津波の被害が予想される 子安小学校における防災マニュアル

場面	対象	地震発生	安全確保	1次避難	安全確認	大津波警報	2次避難	安全確認	情報収集被害状況把握	保護者へ連絡・引き渡し	防災拠点機能
大津波発生・大津波警報発表	授業中	地震発生	<p><緊急放送で安全確保の指示> <テレビ・ラジオ等で地震・津波警報等の確認と最新情報入手></p>	<p>統轄本部設置 校長は、校長室(職員室)で指揮 <緊急放送で全校避難を指示></p> <p>副校長は、すぐに校庭へデジタル防災無線を携帯</p>	<p><人数と安否確認> 児童生徒→担任→学年主任→副校長→校長 ①周囲の被害状況の把握 ②二次避難の準備・計画 ③負傷者の確認と手当 ④児童生徒の不安緩和 ⑤病院等の医療機関との連携</p>	大津波の襲来予想	<p><警報を受け、校舎最上階又は近くの丘陵地への避難指示> <津波情報の確認と最新情報入手></p> <p>※事前に場所を決めておく</p>	<p><人数と安否確認> 児童生徒→担任→学年主任→副校長→校長 ①周囲の被害状況の把握 ②負傷者の確認と手当 ③児童生徒の不安緩和 ④病院等の医療機関との連携</p>	<p><学校教育事務所へ連絡> (第1次報告に変更がある場合) <区災害対策本部へ連絡> ※防災無線、FAXの活用</p>	<p><統轄本部で情報収集> ①学校周辺の被害状況 ②公共交通機関等の運行状況 ③携帯電話への接続状況 ④保護者への連絡方法の確認</p> <p>保護者へ連絡 市域のいずれかで震度5強以上を観測した場合</p> <p>①電話による連絡 ②緊急連絡網等</p>	<p><区災害対策本部との連携> <学校教育事務所との連携> <防災拠点運営の協力></p> <p>地域防災拠点マニュアルに沿って協力開始</p>
			<p><的確な指示> ①「頭部をまもれ」 ②「机の下にもぐれ」 ③「机の脚をもて」 ④「安心するような声かけ」</p>	<p><校庭へ避難誘導> ①名簿・引き渡しカード・ホイッスル等の携帯 ②配慮を要する子どもへの対応 ③トイレ、特別教室等に児童生徒残っていないか確認</p> <p>災害対策本部設置</p> <p>救出・救急医療班 活動開始 消火・安全点検班 活動開始</p> <p>施設被害状況の把握 危険箇所の立入禁止措置</p>	<p><1次避難状況を学校教育事務所へ報告>(1次報告:様式2 FAX等)</p>		<p><校舎最上階又は近くの丘陵地へ避難誘導> <的確な情報を与え、落ち着くように指示></p> <p>救出・救急医療班 活動継続 消火・安全点検班 活動継続</p> <p>施設被害状況の把握 危険箇所の立入禁止措置</p>	<p><役割分担に従って行動> ①学校、地域の被害状況把握(通学路等も...) ②ライフライン、公共交通機関の状況 ③負傷者への対応 ④危険箇所の確認と立入禁止の表示 ⑤不安を訴えている子どもへの対応(養護教諭中心に)</p> <p>連絡とれた 引き渡し</p> <p>連絡が取れず、または危険で保護者の引き取りが困難 留め置き</p>	<p>待避場所の確保 食糧の確保 保護者への連絡継続</p>		
			<p><揺れがおさまるのを待つ> 机の下にもぐり、落下物から身を守る</p>	<p><落ち着いて移動> 防災頭巾等で頭部を保護しながら上履きそのまま移動 <おかしもの約束> おさない かけない しゃべらない もどらない</p>	<p><負傷者がいる場合は助け合う> ①勝手な行動をとらない ②私語をつつしむ</p>		<p><落ち着いて移動> 防災頭巾等で頭部を保護しながら上履きそのまま移動 教員の指示に従い、急いで集合場所へ移動</p>	<p><負傷者がいる場合は助け合う> ①勝手な行動をとらない ②私語をつつしむ</p>	<p><避難場所で静かに待つ> <指示に従って、帰宅準備を行う></p> <p>①保護者への引き渡し ②留め置き</p>	<p>待避場所の確保 食糧の確保 保護者への連絡継続</p>	
			<p>特記事項 誘導係 確認係 集合係 物品持ち出し</p>	<p>避難場所 屋上 A棟 B棟 子安公園</p>							
震下校中	地震発生	地震発生	<p>災害対策本部設置</p>	<p>統轄本部設置 校長は、校長室(職員室)で指揮</p>	<p><安否確認> <1次避難状況を学校教育事務所へ報告>(1次報告:FAX)</p>	大津波の襲来予想	<p><警報を受け、校舎最上階又は近くの丘陵地への避難指示> <津波情報の確認と最新情報入手></p>	<p><人数と安否確認> 児童生徒→担任→学年主任→副校長→校長 ①周囲の被害状況の把握 ②負傷者の確認と手当 ③児童生徒の不安緩和 ④病院等の医療機関との連携</p>	<p><学校教育事務所へ連絡> (第1次報告に変更がある場合) <区災害対策本部へ連絡> ※防災無線、FAXの活用</p>	<p><統轄本部で情報収集> ①学校周辺の被害状況 ②公共交通機関等の運行状況 ③携帯電話への接続状況 ④保護者への連絡方法の確認</p> <p>保護者へ連絡</p> <p>①電話による連絡 ②緊急連絡網等</p>	<p><区災害対策本部との連携> <学校教育事務所との連携> <防災拠点運営の協力></p> <p>地域防災拠点マニュアルに沿って協力開始</p>
			<p><揺れがおさまるのを待つ> ①高層ビル等からの落下部に注意 ②ブロック塀、自販機から離れ、頭部を保護</p>	<p><安全な場所へ避難> 揺れが収まる → 学校 校庭等、安全な場所に避難 自宅 帰宅した場合は、学校へ連絡</p>	<p><情報収集> ①学校に登校児童生徒の確認 ②帰宅した児童生徒の安否確認 ③校内施設被害状況の把握 ④危険箇所の立ち入り禁止措置</p>		<p><校舎最上階又は近くの丘陵地へ避難誘導> <的確な情報を与え、落ち着くように指示></p> <p>救出・救急医療班 活動継続 消火・安全点検班 活動継続</p>	<p><役割分担に従って行動> ①学校、地域の被害状況把握(通学路等も...) ②ライフライン、公共交通機関の状況 ③負傷者への対応 ④危険箇所の確認と立入禁止の表示 ⑤不安を訴えている子どもへの対応(養護教諭中心に)</p> <p>連絡とれた 引き渡し</p> <p>連絡とれず 留め置き</p>	<p>待避場所の確保 食糧の確保 保護者への連絡継続 不安を抱えた児童生徒への対応</p>		
			<p><揺れがおさまるのを待つ> ①高層ビル等からの落下部に注意 ②ブロック塀、自販機から離れ、頭部を保護</p>	<p><安全な場所へ避難> 揺れが収まる → 学校 校庭等、安全な場所に避難 自宅 帰宅した場合は、学校へ連絡</p>	<p><学校へ連絡し、状況を報告、指示を受ける> <地元の公共機関等へ連絡し、救援要請を行う> ①区役所 ②近隣の小中学校 ③警察等</p>		<p><地元公共機関等の指示を受け、近隣ビルの最上階又は近くの丘陵地への避難誘導> <津波情報の確認と最新情報入手></p> <p><学校へ詳細を連絡し、指示を受ける></p>	<p><人数と安否確認> ①周囲の被害状況の把握 ②負傷者の確認と手当 ③児童生徒の不安緩和 ④地元病院等の医療機関との連携</p>	<p><学校における今後の対応策の検討> ①現地からの報告を受け、学校教育事務所に報告 ②保護者へ連絡・現状の説明(安否についても)・帰宅方法等について ③現地で帰宅させる交通手段等の手配 ④地元公共機関への応援要請 ⑤現地への教職員派遣</p> <p>※県外(特に自然教室、修学旅行等)で校外活動中に、横浜市内で大規模地震に伴う被害がでた場合は、学校または学校教育事務所に連絡し、具体的な指示を受けてから活動する。(特に横浜に向かって移動中の場合)</p>	<p>待避場所の確保 食糧の確保 保護者への連絡継続 不安を抱えた児童生徒への対応</p>	
<p><揺れがおさまるのを待つ> ①高層ビル等からの落下部に注意 ②ブロック塀、自販機から離れ、頭部を保護</p>	<p><安全な場所へ避難> ①教員や公共交通機関の乗務員の避難指示に従う ②教師とはぐれた時は、動かず、その場で待つ</p>	<p><負傷者がいる場合は助け合う> ①勝手な行動をとらない ②私語をつつしむ</p>	<p><教員や地元の方々の指示に従う> ①落ち着いて行動する ②勝手な行動をとらない ③教師とはぐれた時は、動かず、その場で待つ</p>								
校外学習等	地震発生	地震発生	<p><安全確保を最優先> ①地形や滞在場所の状況を確認し、安全確保を指示 ②公共交通機関を使用している場合は乗務員の指示に従う</p>	<p><揺れがおさまるのを待ち、安全な場所への移動を指示></p>	<p><学校へ連絡し、状況を報告、指示を受ける> <地元の公共機関等へ連絡し、救援要請を行う> ①区役所 ②近隣の小中学校 ③警察等</p>	大津波の襲来予想	<p><地元公共機関等の指示を受け、近隣ビルの最上階又は近くの丘陵地への避難誘導> <津波情報の確認と最新情報入手></p> <p><学校へ詳細を連絡し、指示を受ける></p>	<p><人数と安否確認> ①周囲の被害状況の把握 ②負傷者の確認と手当 ③児童生徒の不安緩和 ④地元病院等の医療機関との連携</p>	<p><学校における今後の対応策の検討> ①現地からの報告を受け、学校教育事務所に報告 ②保護者へ連絡・現状の説明(安否についても)・帰宅方法等について ③現地で帰宅させる交通手段等の手配 ④地元公共機関への応援要請 ⑤現地への教職員派遣</p> <p>※県外(特に自然教室、修学旅行等)で校外活動中に、横浜市内で大規模地震に伴う被害がでた場合は、学校または学校教育事務所に連絡し、具体的な指示を受けてから活動する。(特に横浜に向かって移動中の場合)</p>	<p>待避場所の確保 食糧の確保 保護者への連絡継続 不安を抱えた児童生徒への対応</p>	
			<p><揺れがおさまるのを待つ> ①高層ビル等からの落下部に注意 ②ブロック塀、自販機から離れ、頭部を保護</p>	<p><安全な場所へ避難> ①教員や公共交通機関の乗務員の避難指示に従う ②教師とはぐれた時は、動かず、その場で待つ</p>	<p><負傷者がいる場合は助け合う> ①勝手な行動をとらない ②私語をつつしむ</p>		<p><教員や地元の方々の指示に従う> ①落ち着いて行動する ②勝手な行動をとらない ③教師とはぐれた時は、動かず、その場で待つ</p>				